

子供の能力は無限



株式会社ナンブ
代表取締役社長 南部 淳 氏

教育随想

私は、株式会社ナンブの代表取締役社長として、常に社員教育のことを考えています。最近「南部塾」を主宰して、経営者や社員に必要な知識を教えています。また「南部音楽塾」も主宰し、小中学校の子供たちにマンドリンとギターを教えています。子供たちの成長には目を見張るものがあります。

現在六十四歳ですが、五十歳代から英語を勉強し、英検一級並びに、TOEICで九二〇点を取得しました。その後、フィリピンでビジネスも展開中です。五十歳代後半にはMBA（経営学修士）を取得し、昨年は心理学検定一級を取得、今年も認定心理士を取得できる予定です。

ところで日本は、一時、GDPで世界第二位になりましたが、現在は第四位、一人当たりGDPでは既に



令和8年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
株式会社ナンブ 代表取締役社長 南部 淳 氏 この人に聞く……………	2
和菓子店店主 高田万里子 氏	
羅 針 盤……………	2
前音楽科指導員 服部 晃峰	
ふれあい……………	3
岩津小学校 教諭 檀浦 克子	
特 集……………	4
紡がれる伝統の演舞・演技 ～特色ある運動会・体育大会～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
京ヶ峰ハイキング(昭和55年)	
この本を……………	8



世界四十位まで転落し、とても先進国とは言えないレベルです。それに伴い円も下落し、国民の生活は日に日に厳しくなりつつあります。これを何とかするため、また各個人が素晴らしい人生を送るため、教育関係の皆様の特にお伝えしたいのは、「マインド」と「生涯教育」の重要性です。人間は「できない」と思うことはやりませんし、できません。オリンピックで金メダルを取った高橋尚子選手に小出監督が「君ならできる」と言い続けたという話は有名ですが、「チャレンジ」をさせ、

「できる」というマインドを教え込む。そして「失敗」を許容する文化も大切です。人は失敗から学ぶことが多いです。それが成功につながります。

また、日本人は社会人になると、世界で一番勉強しない国民になってしまいました。そのことも国力の弱体化に繋がっています。

色々な意味で「子供の能力は無限」。その無限の力を信じ、引き出し、一生勉強を継続できる教育をしていただきたいと思っています。

(なんぶ あつし)



できることを、できる形で

和菓子店店主

高田 万里子 氏

店内に入ると、和菓子が並ぶ棚の一角にある猫のグッズが目に入る。和菓子屋を営みながら、マリリンという愛称で保護猫活動に奔走している高田さんに、その思いを伺った。

—原動力となる思いは何ですか—

「外で暮らす猫をこれ以上増やしたくない」という思いが原動力となっています。外で暮らす猫の生活環境は、食糧不足による空腹、気候変化や劣悪な状況による病気、交通事故等のリスクがあり、本当に過酷です。

近所の野良猫が弱っていく姿を見ていながら何もしてあげられなかった二十年ほどの経験から、こうした思いをもつようになりました。その後、外で暮らす猫を保護し、譲渡

先を探す活動を始めました。しかし、引き取り手はなかなか見つからず、その間にも猫は増えていきました。猫は年に二、三回出産し、一度に五、六匹生まれることもありま。このままでは追いつかないと感じました。外で暮らす猫には、世話をする人がいない野良猫と、地域の人が見守りながら関わる地域猫がいます。ただ、地域猫でも不妊治療が行われることは少なく、数は増えてしまっています。そこで、猫の状況に合わせた助け方を考えるようになりました。

人に慣れていない猫は捕獲して不妊治療を行い、元いた場所に戻します。これはTNRと呼ばれる取組で、手術を終えると耳に小さな切れ込みが入ります。「もう子供は産めません」という目印です。不妊治療が済んでいる猫には、地域で見守りながら関わってほしいと思っています。一方で、人に慣れている猫は保護をし、里親に繋いでいます。猫の性格に合わせて、安心できる居場所に繋ぐことが大切だと考えています。

—磯部海苔男と出会ってからのことを教えてください—

三年前に保護した猫が、たまたま珍しい模様をしていて、「磯部海苔男」という名前をつけました。SNSに載せると思いがけず反響があり、「細川たかしさんに似ている」なんて言われるようになり、そこから思わぬ

繋がりが生まれました。

さらに注目されるきっかけとなった出来事は「磯部海苔男」が猫伝染性腹膜炎という難病を発症したことです。その治療法を発信すると、詳しく教えてほしいという問い合わせがたくさん届きました。同じ病気で困っている人の力になりたいという思いから、本を出版しました。

それ以降、私の活動に関心を寄せてくださる方が増えました。また、譲渡に繋がるご縁も広がっていきました。磯部海苔男をきっかけに支えが増えたことで、活動を続けやすくなったと感じています。

—今後の目標を教えてください—

外で暮らす猫が増えないように活動を継続しつつ、多くの人がTNRを利用しやすい仕組みを確立したいと思っています。現在、TNRにかかる費用は個人負担です。そこで、仲間と一緒にTNRのための基金「ねこくら」を作りました。この基金を活用し、誰でも困ったときにTNRができるようにしたいと思っています。今後、できることをしていきます。



氏名 高田 万里子
生年月日 昭和五十二年七月十日
住所 岡崎市藤川荒古



思いを音にのせて

前音楽科指導員 服部 晃峰

自分の思いやテーマに合った音楽をつくり、その意図が聴き手に伝わるように工夫することは、音楽科の表現活動の中でも大切な学びである。小学校三年生の創作の授業で、A

教諭は「どんな感じがするかな」と、教師の自作音源を再生した。子供から「わくわくする」と声があがる。A教諭は、そう感じたのはなぜかと問い、子供はその根拠を述べていく。A教諭は、「実は悲しいイメージで作った」と明かした。子供たちは、「えっ」と驚きの声をあげる。また、A教諭は、「自分の思ったことがそのまま伝わるとは限らない。みんなには、どうしたら伝わるかを考えてほしい」と語った。自分の意図と聴き手の「ずれ」を感じ取れるようにしたこと、子供は、本時の課題である「思いを伝えるための工夫」を意識し始めた。



居心地のよい場所へ

岩津小学校

教諭 檀浦 克子

四月、六年生を担当することになり、引き続きAさんの担任となった。Aさんは担任が私だと分かると、にやっとして、「また先生じゃん」と、声をかけてきた。

教室に入ったAさんは、不安そうに席に着き、周りの様子をじっと見ている。Aさんは、級友とのコミュニケーションが得意ではない。五年生の頃も、自分から関わったり、級友との距離感をつかんだりすることに戸惑う様子が見られた。級友もまた、そんなAさんに対しどこかぎこちなく接するような雰囲気があった。今年度こそは、Aさんの不安を和らげたい。そして、教室が居心地のよい場所だと思えるようにしたいと決意した。

ある日、「この絵を見て。上手で

しよう」とAさんが声をかけてきた。Aさんの描いた絵は見事で、「すごい。また見せてね」と称賛した。Aさんは満足そうな表情を浮かべた。この出来事を機に、Aさんと絵についてのやり取りが始まった。何度も会話を重ねるうちに、私は、Aさんの描いた絵を授業に生かせないかと考えるようになった。

そこで、図工の授業で使う手本を作ってほしいとAさんに頼んでみた。

「いいよ。紙ちょうだい。」

「助かるよ。ありがとう。」

「こんな感じかな。」

あつという間にグラデーシヨンの塗り方の手本を完成させた。

「違うパターンのも欲しいな。」

「こんなのはどうかな。」

今度は一枚目とは異なる雰囲気の塗り方の手本を仕上げた。

次の日、さっそくその手本を使って、Aさんに塗り方の説明や実演を

してもらった。すると、「おおっ」と歓声が上がった。級友からの拍手の中、Aさんは照れくさそうに、また少し得意げな様子で、ちらっと私の方を見た後、席に戻った。

授業後、Aさんを廊下呼び、

「今日はありがとう。これからの授業で手本として使いたいから、この絵を先生がもらっていい。」

「いいよ。そうだったらもっとう手に描いたのに。」

「十分だよ。これからみんなにも描けた絵を見せたらいいよ。」

Aさんは、うれしそうに微笑んだ。

この日から、これまでAさんに対してぎこちなかった級友の表情に、関心や尊敬の色が混じり始めた。

「えっ、これ鉛筆だけで描いたの！」

「昨日の絵、完成したかな」と、A

さんの周りに子供たちが集まり、笑

い声広がるようになった。「この絵

見て」と、自分から級友に声をかけ

楽しそうに話すAさん。笑顔で過ご

す時間も増え、Aさんにとって教室

が居心地のよい場所になったのだと

思った。

三学期に入ったある日。

「また先生が担任だったけど、悪く

なかったよ。」

Aさんがこっそり言った一言に、

胸が熱くなった。



個々の創作活動では、タブレット端末を使用し、テーマを、「わくわく」「びっくり」「悲しい」の三つから選択する形をとった。テーマを絞ること

とで子供が迷わないようにしたA教諭の工夫である。子供は、音色、強

弱、音の重なりといった音楽の要素

を意識しながら、思いに近いけよう

と試行錯誤する。チームで聴くとき

は、音声分配器を用いて、同じ音を

同時に共有できる環境が整えられて

いた。児童Bの作った音楽を聴いた

児童Cは、「楽しい感じがするね。だ

んだん音が強くなっていったから」

と感想を述べた。さらに「最初をもっ

と小さくして、楽器を足していくと、

もつとわくわくすると思うよ」と児

童Bに伝えた。児童Bは友達の見

を参考に五種類の楽器を重ね、思い

に合う音の変化を生み出そうと夢中

になって工夫を重ねていった。

振り返りで児童Bは、「音の重なり

や強弱を工夫すると、相手に伝わり

やすくなる」と、手応えを感じてい

た。音楽を形づくる要素を感じ取り、

それらがもたらす特質や雰囲気意識

しながら、表現へとつなげていく。

こうした学びを通して、子供たちは

聴き手を意識して工夫を重ね、音で

思いを表す面白さに気付く。そして、

自ら表現を創り出す喜びを実感して

いくのである。

いくのである。

紡がれる伝統の演舞・演技

～特色ある運動会・体育大会～



▲「夢おどる」(六ツ美北中)

児童・生徒が力いっぱい姿を見せる運動会や体育大会。各小中学校には、長年受け継がれてきた伝統の演舞・演技があり、時代に合わせて進化しながら子供たちへ紡がれている。

北中学校の「輝づなソーラン」は、今年度で二十五年目を迎える。竜海中学校で五十年ほど前から女子生徒の演舞として続いていた「さくら」は、令和三年度から男女合同で行う「さくら舞い竜翔ける」に生まれ変わった。また、常磐中学校では、昭和六十三年に生徒が制作した楽曲「常磐のみどりと共に」に振付を加え、令和五年度に新たな演舞として完成させている。その他、岡崎の心の醸成を目指して創作された「夢おどる」や、岡崎市のよさこい総踊り曲として定着している「天濤快」に取り組む学校もある。

福岡中学校の「剛操の舞」は、地域とつながる演舞を目指している。地域財産を活用した衣装製作、生徒のデザインしたうちわやポスターの配付、地域施設での演舞披露など、学校の枠を越えて進化を続けている。

また、小学校で取り組まれる特色ある演技も大切に受け継がれている。岩津小学校の「ボール体操」は、昭和五十年から続く学校や地域の誇りである。下山小学校や恵田小学校では、一輪車演技が児童の熱心な練習の成果として、長年にわたり披露されている。

各校や地域に根ざしたこれらの活動は、子供たちの学校への誇りや郷土愛を醸成する源である。躍動する子供たちの姿を、未来に繋げていきたい。

学校の歴史を紡ぐ伝統の演舞



▲「常磐のみどりと共に」(常磐中)



▲「さくら舞い竜翔ける」(竜海中)



▲「輝づなソーラン」(北中)

岡崎市を歌った楽曲による演舞



▲「一天壽快」(福岡小)



▲「夢おどる」(新香山中)



▲生徒作成のうちわやポスター

地域とつながる演舞



▲土呂祭礼や特別養護老人ホーム「なのはな苑」での演舞披露



▲「剛操の舞」(福岡中)

各校の特色あふれる演技

○岩津小学校といえば、ボール体操だと思います。全校児童の投げた色とりどりのボールが空に舞う瞬間がとてもきれいで見どころです。お父さんも小学生のときにボール体操をやっていたことを聞き、驚きました。見に来てくださる地域の方々に喜んでもらえるように、一生懸命ボール体操に取り組んでいきたいです。(岩津小5年生の声)



▲ボール体操 (岩津小)



▲一輪車カーニバル (恵田小)



▲一輪車ドリル (下山小)



表彰

◆第57回愛知県春季少年剣道大会

○中学男子の部

3位 岡崎CENTRAL

◆2025年度中部日本個人重奏コンテスト愛知県大会

○重奏の部

・打楽器三重奏

金賞(本大会出場)

岡崎SOUTH

前原環太郎

佐野 絢菜

下川 瑠凜

金賞(本大会出場)

岡崎WEST

澤田 朱里

稲石 莉乃

石内 絵麻

・管楽八重奏

金賞(本大会出場)

岡崎WEST

角谷 鷺・岩崎 真子

山本 音有・酒井 友芽

谷脇 聖椰・鈴木一千家
縄 一花・都築 花

○個人の部
・クラリネット

金賞(本大会出場)

岡崎SOUTH

井下 璃音

◆キッドウイットネスニユース日本コンテスト

○小学生の部

優秀作品賞

形埜小 TEAMかたの

パナソニック賞

形埜小 TEAMかたの

◆第37回読書感想画中央コンクール

○小学校低学年の部

奨励賞

井田小 青木 陽葵

大樹寺小 中島 涼太

◆第27回白鳥省吾賞

○小・中学生の部 詩

優秀賞

竜海中 樋口未早喜

◆愛知県みどりの少年団交歓会

特選・愛知県緑化推進委員長賞

形埜小 形埜みどりの少年団

◆令和7年度明るい選挙啓発ポスター入選

矢作北中 兼島 葵

矢作北中 後藤 咲月

令和八年度校長会役員

〈小中学校長会〉

会長 岡 秀之(南 中)

副会長 紀平 高之(大門小)

竹平 真仁(竜南中)

細井 鶴貴(矢作北小)

加藤 環(豊富小)

長谷川勝一(東海中)

稲垣 祐嗣(根石小)

小田 英宣(翔南中)

佐橋 康仁(藤川小)

安藤 眞樹(竜海中)

本郷 一毅(竜美丘小)

熊谷 清一(城北中)

太田 幹也(葵 中)

〈小学校長会〉

会長 紀平 高之(大門小)

副会長 細井 鶴貴(矢作北小)

加藤 環(豊富小)

鈴木 正統(美合小)

稲垣 祐嗣(根石小)

本郷 一毅(竜美丘小)

後田 和紀(梅園小)

〈中学校長会〉

会長 竹平 真仁(竜南中)

副会長 長谷川勝一(東海中)

板倉 眞介(矢作北中)

安藤 眞樹(竜海中)

宇都木靖弘(甲山中)

丹下 義輝(岩津中)

〈専門委員会・委員長〉

法制 本郷 一毅(竜美丘小)

教育条件 太田 幹也(葵 中)

学校経営 早川 周宏(北 中)

進路 成田 隆行(六北中)

保体 岡村 直美(常磐小)

福安 長坂 博子(連尺小)

給食 平岩 文子(下山小)

生徒指導 板倉 眞介(矢作北中)

特別支援 宇都木靖弘(甲山中)

広報 堀田 史(六北小)

〔訂正〕

三月号掲載の「1年のあゆみ」、四月号掲載の「期待の新任事務職員」に誤りがありましたので、訂正いたします。

●1年のあゆみ

・第7回愛知県中学生新人陸上競技大会

女子走高跳 3位

甲山中 鈴木実那弥

●期待の新任事務職員

・井田小学校 村井 将斗

・矢作北中学校 岡田 春愛



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan 
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日 20:00～24:00 日曜日 20:00～翌月曜日 8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0564-83-9743	月曜日～金曜日 9:00～17:00	
あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間	

令和7年度 岡崎市教育研究論文 入賞者

■小学校個人の部

最優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry: 体育 男川小 伊奈 亨 自ら学びを選択し、運動に取り組む中で、投能力を向上させる児童の育成

優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects like 理科, 国語, 算数, etc.

佳作

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects like 算数, 国語, 社会, etc.

■中学校個人の部

最優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry: 社会 矢作北中 中西 悠 社会的事象に関わる課題に対して自分事として学びを深め、よい社会づくりに向け自己の生き方と向き合生徒の育成

優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects like 国語, 保健体育, 数学, etc.

佳作

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects like 理科, 数学, 社会, etc.

■共同の部

最優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry: 教育全般 甲山中 代表 神谷 尚希 子供たちのウェルビーイング実現にむけた教育の推進

優秀賞

Table with 3 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for 教育全般.

(論文入賞者数)

Table with 5 columns: 賞, 最優秀, 優秀, 佳作, 合計/応募数. Summary of award counts for elementary, middle, and combined categories.

佳作

Table with 3 columns: 教育全般, 城南小, 現職研修部 代表 菅 美津枝. Entry: 教育全般 常磐中 代表 吉口 潔



・カ
ツ
ト
男
川
小
宮
田
朱
里

京ヶ峰ハイキング (昭和55年)

写真提供：緑丘小学校

「京ヶ峰、みどりはもえて……」
 子供たちが、京ヶ峰の山頂で校歌を歌っている。開校六年目、学校の南にある京ヶ峰へハイキングに行った際の写真である。ハイキングは、PTA主催の行事として計画され、地域の人々が力を合わせて登山道を切り開いた。整備された山頂から学校を見下ろし、皆で校歌を歌うこの活動は、現在も大切に受け継がれている。学校は、地域と共にある。子供たちのふるさとを思う心は、学校や地域で学ぶたくさんの体験を通して、醸成される。その過程を支え、見守っていききたい。



「どうしたら速くなるのか」。リレーの練習後、子供たちは様々な意見を交わしていた。運動会に向けて、一人一人の思いがクラス全体へと広がり、皆の目の色が変わっていく。共に努力してきた仲間を信じ、子供たちは運動会本番に挑む。素敵な仲間たちと一緒に喜びを分かち合う、その瞬間を思い描きながら。

ホ ッ と

目 録



▲茶種取り (六ツ美中部小)

誇りをもって臨む渾身の演舞。指先まで意識を巡らせ、全身全霊で舞う。鮮やかな衣装と共にグラウンドを彩るその姿は、圧巻の一言である。その背中に憧れた後輩たちがまた全力で演舞に挑み、学校・郷土を象徴する伝統が作られていく。生き生きとした子供たちの表情は、未来を作る希望の光そのものである。

つながりを軸に地域猫と向き合う姿に触れ、これまで意識することのなかった世界を知った。繋ぐ思いで保護とTNRに取り組み、小さな命を守る営みが、地域の中で確かに積み重ねられている。外で生きる猫それぞれの背景に、支えようとする人がいることを思うと、何気ない日常の風景が変わって見えてきた。



*不登校から人生を拓く 島沢 優子
講談社 ¥1,000

心に残った一文

「ひとりでもわかってくれたり、応援してくれたりする人がいたら頑張っていける。」

我が子が突然「学校に行けなくなってしまった」という保護者は、自分たちを責め、悩みを抱えてしまうことが多い。そのようなときに、自分の思いを他人に聞いてもらえたり、温かい言葉をかけてもらえたりすることで、少しずつ前向きになれるという人は少なくない。

本書は、4,000組の親子に寄り添った相談員への取材を基にしたものである。その経験則に基づく一言一言には、説得力とともに重みを感じる。相談員としての目線から、保護者支援や言葉がけ等、不登校問題に切り込んだ1冊である。

- *任せることで子どもは伸びる 辻 正人
ポプラ社 ¥1,500
 - *自己との対話を深める「対話」 諸富祥彦
図書文化社 ¥1,800
 - *「遅読」のすすめ 齋藤 孝
SBクリエイティブ ¥950
- 六ツ美中学校 兵藤 輝徳